

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年10月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472300288		
法人名	(株) ひまわりあくと		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	広島県大竹市南栄2丁目6-31 (電話) 0827-53-3130		
自己評価作成日	9月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3472300288-00&PrefCd=34&Version
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和元年10月17日(木)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気大切に、その中で入居者様がいきいきと自分らしく生活できるように支援している。食事は職員が台所で手作りし、時には入居者様にも簡単な作業を手伝って頂いたり掃除をしたりしている。認知症になっても役割を忘れず暮らして頂く事を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームさくらの理念「利用者様と職員がひとつの家庭として共に暮らせる暖かい雰囲気の中で生活サポートをしていきます」を掲げ、職員は事業所の目指す方針、理念について十分話し合い、全員が共有し一人ひとりの生活歴、性格、思いを十分把握し、受け止めている。利用者が毎日安心した生活が過ごせるよう、利用者の立場に立って、楽しい事、張り合いのある生活の喜びを維持出来るよう支援している。居心地の良い環境で、ここに来て良かったと思ってもらえるようなグループホームにしたいと努力と実践をしているグループホームです。

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	リビング内に理念を掲げて職員全員で理念の共有に取り組んでいる	さくらの理念を「利用者様と職員がひとつの家庭として共に暮らせるよう、暖かい雰囲気の中で生活をサポートしていきます。」事業所の目指すものとし、意思統一を図り、職員は常に原点に立ち戻るようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	今年の大竹祭りには両棟から何名かの参加予定です	町内会に入り、地域の行事等声をかけてもらっている。秋祭り(大竹祭り)には近隣の方の駐車場に椅子を設置して頂き、賑やかな神輿が来て盛り上がり、利用者は祭りを楽しまれている。町内の副会長様の計らいで、近くの公園での「餅つき」に参加し地域の方と交流している。	運営推進会議の出席者などに声をかけて子供達や、地域ボランティアの方の訪問を受け、交流される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	なかなか行動には至っていないが、電話での問い合わせには対応し貢献していけるように努めていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に一度運営推進会議を実施しており、利用者の暮らしぶりや取組み等を報告し西棟は各家族へ資料を郵送している	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域代表、民生委員、家族、市役所職員、地域包括支援センター職員、主任、管理者、計画作成担当者の出席で開催される。事業所の行事予定、状況報告、災害対策、事故予防等報告し、出席者からの意見、提案を聞き運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等を活用しながら担当職員と話す機会を持ち、わからない事を聞いたり、アドバイスをもらっている	市役所とは運営推進会議で情報を交換し、地域包括支援センター主催の研修の情報を得ている。分からない事は問い合わせている。電話、メールでも連絡し指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2カ月に一度身体拘束委員会を実施し、職員のミーティング等を通じ勉強会を行っている	2ヶ月に1回身体拘束適正委員会を運営推進会議の後に地域包括支援センター職員、勤務の職員で問題を提起し、話し合いをされ、各自の意見を聞き、分かりにくい事等具体的に正しく理解できるよう取り組まれている。ミーティングで身体拘束の勉強会を2ヶ月に1回行い研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	10月18日広島県地域包括ケア推進センター主催の「介護施設等における高齢者虐待の防止に取り組み、尊厳のあるケアを目指して」に参加予定です		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護を利用している入居者はいないが将来的に利用することも想定して勉強会を通じ学ぶ機会を持ちたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約解除時は十分に家族に説明し、ご理解、納得した上で契約を結んでいる		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン制度説明時に家族としっかりコミュニケーションを取り、意見や希望はなるべく取り入れている	家族からの要望は面会時や電話で聞く事が多く、職員は話しやすい関係づくりを築き、出来る事は改善に向けている。請求書送付時に「さくら便り」を同封し、利用者の普段の様子を知らせ、意見や要望等聞き、会議で検討しそれらを運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見には耳を傾け、お互いの信頼関係が築けるよう努めた施設長や主任へ報告している	職員の意見は日々の業務の中で施設長、主任、管理者に話しやすい雰囲気、気付きや提案を意見交換し働きやすい職場にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業時間など職員からの要望も取り入れながら環境設備に努めています。今年度からは全ての勤務時間を変更する等柔軟に対応しています		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティング時勉強会を開いたり事業所外の研修に積極的に参加し介護技術の向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修、講演会を通じ他の職員とも交流を図っている		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の情報収集に努め在宅時と同じような生活が出来る様に努力している、また時間がかかる事もあるがご本人様の要望も聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	2回目のケアプラン更新時にケアプランの内容を変更・追加する事が多い為、家族に相談し了承を得ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設がどのようなサービスを提供できるかを説明したうえでどのような支援ができるかを話し合い、情報を共有していけるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に同じ生活空間で生活をするという視点を忘れないよう意識を高めるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは常に連絡を取りケアプラン作成時等に要望を聞き時にはご家族の協力もお願いしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご近所の方が訪問される事もあり又ご家族と出掛けたりと楽しい時間を過ごしてもらっている	家族、近隣の方、友人の面会があり、訪れた方との時を楽しまれている。自宅に帰られる事、孫の結婚式出席、墓参り、病院の受診帰りに自宅に立ち寄ったり、馴染みの場所に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	両棟へは、いつでも行き来出来るようにし、東西の利用者同士と一緒に話をしたりしている。入居者同士が支え合うということも大切な支援であることを職員にも理解してもらい関わり合いを大切にするように努力している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情によりサービスが終了しても面会に行ったり家族の相談に乗って関係を断ち切らない様になっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活リズムを聞きながら、ご本人の意向も聞き検討している	生活歴、日々の話の中から利用者の意向を把握するよう努め、行きたい所、してほしい事を聞き、できる事は支援をして家族の協力を得て利用者の意向を支援している。利用者から「地域の敬老会に行きたい」との希望があり、家族と相談し対応している。又、「髪の色が気になる」との方には、家族と相談し行きつけの美容院に行き希望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や個性、価値観等入居前の情報提供書だけではわからない事があるので、入居後も家族に情報を聞いて支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	「生活の記録」に記録し、その日の生活リズムが一人一人わかるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの更新前にはご家族、職員にも相談し要望を聞きいれている	利用者本位のプラン作りを目指し、ケアプラン3ヶ月に1回、モニタリング6ヶ月に1回目標期間に合わせて利用者、家族の意見を聞いたうえで介護計画作成に取り組んでいる。利用者の状況の変化がある場合には、家族や医師等、関係者の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「生活の記録」に日々の様子やそれに対する職員の対応も記載して何か課題になるような事があればケアプランの見直し評価に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人に様の要望があった場合は極力添える様に臨機応変に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の生活がより良いものになるように地域資源を活用し模索している(ボランティアの活用や大竹祭りへの参加等)		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院を確保しているが在宅時からのかかりつけ医を利用される方もあり本人の状態にあったかかりつけ医を決めてもらっている	主治医は利用者希望のまま入居されている。かかりつけ医による往診は月に2回あり、訪問歯科は週に1回往診がある。他科診療を希望される受診は家族に対応して頂き、出来ない場合は職員が支援している。看護師による日々の健康管理が行われている。	

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当ホームの看護職員、協力病院の看護師等に相談・指導を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は病院と連携を取りながら情報を細かく報告・伝達し希望に添えるように努力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族・医師との話し合い後、職員、家族との話し合いを行い希望に添えるよう努力している	入居時に終末期のあり方について、事業所できる事をしっかりと説明している。実際に重度化された時、利用者、家族の意向を尊重し家族、医師、看護師、職員で話し合い、他施設への移設又は、医療機関への入院も視野に入れ、職員全員で支援に取り組んでいる。現在看取りはされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	合同ミーティング等で緊急時の行動をシミュレーションし急な状態変化に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施。消防本部からも助言を頂き、その後も職員で確認し備えている	年2回の消防訓練を内1回は消防署の指導の基実施し避難場所、通報、水消火器使用、防災窓を開ける等実施している。日中、夜間想定での訓練・指導を受けている。水害についても職員で検討し、対応策を考えている。	
消防署					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや対応の仕方が画一化にならないよう、一人一人の人格を尊重しプライバシーの確保にその都度確認し合っている	一人ひとりのプライドを傷つけないように言葉遣いには気をつけている。特に言葉かけは慣れ慣れしくならないよう注意している。居室でポータブルトイレを使用される場合はカーテンで遮り、プライバシー確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	積極的にコミュニケーションをとりその人がその日何がしたいか自己決定しやすいように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の日課は決まっているが本人の希望やその時の状況に合わせて出来るだけ柔軟な個別支援に努めている		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人が家で行っていた事がホームでも継続していけるように声掛けをしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や配膳・片付けは出来る時に一緒に行っている	3食手作りの食事は旬の食材を使い、利用者の好みを取り入れて献立がたてられ、食事形態も状況に合わせたトロミ食、刻み食を提供されている。職員、利用者と一緒に食事の準備(もやしの下ごしらえ、いなりずし、大根おろし)をしながら利用者のできる事をしている。年間の行事食、誕生会の食事やおやつ作り等利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご飯少な目が良い方にはそのように提供しているまた刻み食やトロミにも対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは毎回声掛けをし、また訪問歯科と連携して口腔ケアにも入ってもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入し個人の排尿や排便のタイミングを掴んでいる	排泄表を活用し、声掛けをし、自立の方もあり、利用者一人ひとりの能力に合わせて、できるだけ自然にトイレでの排泄を支援している。排便コントロールは医師の指示で薬を服用される事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のタイミングを掴むため、排泄チェック表を常に活用し、医師と連携して緩下剤を処方してもらったり、なるべく水分を摂ってもらうよう食事のお茶・汁物・服薬時の水は極力全部飲んでもらうように努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	2日に1回は入浴出来るように支援しているが拒否がある時等は無理強いせず本人が入る気になった時に入るようにしている。その間は清拭で対応している	入浴は2日に1回職員の見守りで、手の届かない部分を介助し、入浴中はゆっくり楽しんでもらえるように支援している。体調によって足浴、清拭、部分浴、シャワー浴の支援をしている。入浴したくない人には、無理強いをせず、職員を替えたり、時間をずらしたり、言葉かけの工夫をして個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人の生活リズムに合わせ昼食後に休まれたり、夕食後に早く横になりたい方は居室に帰るなど、強制的にではなく、バラバラの入床時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲みにくい薬があればすぐに医師・薬剤師に相談し入居者の状態の変化に合わせ服薬ゼリーを利用する等している		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る事と出来ない事、好きな事嫌いな事を見分け、一人一人に応じた役割を作り残存能力を生かせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	テラスへの日向ぼっこや一緒に近所に散歩に出掛けたり買い物に出かけられるように努めている	天候の良いとき、体調を見ながら近隣の散歩に出かけ、花を見たり、風景で四季を感じてもらえるよう支援している。家族との外出で墓参り、法事等に出かけ希望に沿って支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の持ち込みはトラブルになるため許可はしていないが本人から要望がある際は家族と相談しながら出来る限り本人の希望に添えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの手紙や年賀状はすぐに本人さんに渡すようにしている。電話もとりつくこともある		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに大きなソファを置いたり、廊下の途中に椅子を置き、時に一人になる場所も設けている両棟へはいつでも行き来できるようにホーム全体が共用の空間として過ごせるように工夫している	広いリビングは天井が高く、明るく開放感があり、季節の花や2ヶ月に1回位のペースで作られるちぎり絵は壁に飾られ、四季を感じられるようにしている。長い廊下には手作り作品が飾られ両棟の往来でリハビリの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の途中や玄関ホールに椅子を置き、時に一人になる場所も設けている。両棟へはいつでも行き来できるようにし、ホーム全体が共用の空間として過ごせるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特に持ち込みに制限なく家で使用していた物を持参してもらうこともでき、馴染みやすいようにしている	居心地良く過ごせる環境作りに配慮され、馴染みの物を自宅から持ち込まれテレビ、タンス、飾り棚、花、家族写真、利用者の作品が置かれ、その人らしく暮らせるよう取組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの配置や廊下の幅を広く取るなど、シルバーカーや車椅子での移動ができ、自立支援できるよう生活環境づくりに努めている		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームさくら

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム さくら

作成日 令和元年 10 月18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	今年度、現時点で外部の研修の参加回数が少ない。	適宜、外部研修に参加できるようにしたい。	人員配置の工夫をして研修に参加できるようにしたい。	6か月
2	2	地域資源の活用（特にボランティア）が少ない。	ボランティアの活用。	市役所や包括支援センターと連携し、情報を得る。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。